

「がんばる子育て」応援と くじの「安全・安心」を

はじめに



3月の播磨町議会定例会にて、平成21年度施政方針が清水町長より発表されました。

第3次播磨町総合計画に掲げた「まちの将来像」の5つの柱に沿って本年度の主要な事業を説明している施政方針の全文は、ホームページ上に掲載しています。

「はじめに」として所信を紹介します。

大きな問題となっている現在において、また高齢化が進展する播磨町にあっては、安全・安心のまちづくりへの新たな第一歩になるものと思つております。

さて、本年は子育て支援策をいっそう拡大しております。これまでの事業に、新たに「こどもたち赤ちゃんと事業」「妊娠歯科検診事業」「特定不妊治療助成事業」「養育支援訪問事業」「発達障害児等保育事業」などを加え、播磨町における子育て支援事業をさらに充実させてまいりたいと考えております。

また、「北部子育て支援センター」「学童保育所」「播磨幼稚園」「播磨西幼稚園」などの耐震化を作成し、全戸配布いたしました。



直化がさりに進んできております。経常収支比率が90%を超える状況下にあつては、新たな事業の展開は、財政調整基金を取り崩して行うといった方法に頼らざるを得ない現状にあります。

最近の世界経済の危機的な状況を勘案いたしましても、ますます本町の財政状況は厳しくなること予測されます。したがいまして、今後の普通建設事業を始めとする主要懸案事業の実施に際しましては、実施の有無も含め事業の見直しを積極的に行い、その優先順位を総合計画の実施計画と財政運営における財政計画とを勘案して決定することが重要であると考えております。

増加する傾向にあり、財政の硬限られた予算の中でもさまざまな

事業を実施していくためにも、事業に優先順位をつけ、取捨選択をしていくことが肝要であると思っております。

本年度の予算編成におきましては、昨年に実施いたしました第4次播磨町総合計画策定にあたっての住民アンケートの結果を参考にさせていただきております。播磨町民の願う「住みよいまち」の具現化に、少しでも近づくことができればと思っております。

播磨町の町税も以前は60億円ほどあったものが、現在はそれを大きく下回ってきております。一方、歳出は高齢化の進展や少子化対策などの福祉関連経費を始めとする経常的な経費が年々増加する傾向にあり、財政の硬

補強、施設改修などをを行い、子育て関連施設の環境改善に努めてまいります。本町ではすでに他に先駆けて全ての小中学校の耐震化を完了いたしておりますが、新たに小中学校の「施設改修等整備計画」を作成し、学校園施設の充実に努めてまいります。今後、教育の場においても適正な管理のもとに優先順位を定め、教育をしやすい、教育を受けやすい環境を構築してまいりたいと考えております。

現在、地権者のご理解をいただいて実施しております浜幹線事業につきましてもさらに推進してまいります。また、山陽電鉄大中踏切につきましては、拡幅事業に着手し、通学路の安全を図つてまいります。

さらに近年、集中豪雨による相当な溢水が発生していることから雨水浸水対策事業を行い、災害の少ない良好な生活環境の確保に努めてまいります。

その他、今後町内各地域にあ

る公園を子どもだけでなく、世代を超えた多くの方々に健康維持・増進の場としてご活用いただきたいというところから、本年度は野添である公園に健康遊具を設置したいと考えております。また、新島球場も年間多くの団体にご利用いただいていることから、トイレ・駐車場などを快適にご利用いただけるよう再整備いたします。

最後に、現在の厳しい経済情勢によりその経営に苦慮されております町内中小企業などに対しまして、商工会と連携し支援してまいりたいと考えております。